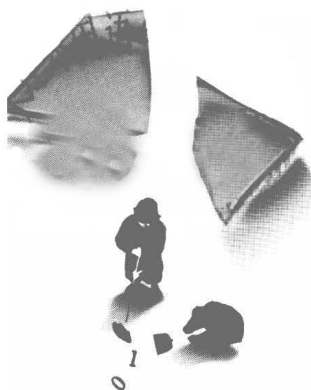


瓶詰のナポレオン
野田秀樹

野田秀樹

瓶詰のナポレオン

野田秀樹



新潮社版

びんづめ

瓶詰のナポレオン

著者／^{のだひでき}野田秀樹

©Hideki Noda, Printed in Japan. 1984

ISBN4-10-340504-X C0093

定価／900円



発行／昭和59年4月20日

2刷／昭和59年6月5日

発行者／佐藤亮一

発行所／株式会社新潮社

〒162／東京都新宿区矢来町71／振替 東京 4-808

tel.／業務部 03(266)5111・編集部 03(266)5411

印刷所／大日本印刷株式会社

製本所／株式会社大進堂

乱丁・落丁本は、御面倒ですが小社通信係宛御送付下さい。送料小社負担にてお取替いたします。

目次

SF小説「二九八四年」「三九八四年」「四九八四年」

3

瓶詰のナポレオン

11

不登場人物紹介

171

野田先生といふ人——野田秀樹意外史その(2)

177

装幀・原研哉／カバ―写真・横田秀樹

S F 小説 「二九八四年」 「三九八四年」 「四九八四年」

二九八四年

今から千年ほど昔の文献をひもとくと、「一九八四年ジョージオーウェル」と書かれたものが多いことに気がつく。当初は、「一九八四年」という書名の本を、ジョージオーウェルという人が書いたのだ、という短絡的な意見が強かった。が、X線照射などによる分析の結果、どうもジョージオーウェルというのは当て字であって、正しい字を当てれば「情事を終える」だろうということ、大方の学者の賛同が得られた。

「一九八四年情事を終える」

おそらく、千年単位で訪れる終末論のひとつかと思われる。人間の性行為そのものへの否定である。

その当時の素朴な民衆達の生活が、てらいなく描かれている日本最古の漫画集「ビッグコミック」の中でも、そうした題材が謳われていることが多い。合法的な愛のない性行為（夫婦生活）と非合法的な愛のある情事（アイジョージ）とのはざまで揺れ、破局を迎えそうになりながら、やがて元の鞘におさまるといいう一連のモチーフの繰り返しの中で、「一九八四年情事を終える」の終末論は語られたのであろう。

今でこそ愛人銀行は、金融界の中心となり、愛人本位制度がとられ、愛人の種類にも、普通愛人、定期愛人の他、満期になれば愛人が一ダース揃うという積立愛人まで現われ、愛人には事欠かない。愛人銀行四ツ谷支店が爆破され、愛人の手足が飛び散るといふあのいたましい惨事も記憶に新しいと思う。今日の我々は、愛人銀行なくして、性行為を語ることとはできない。そんな今日からすれば、愛人というコトバが女子大生と同意語であつた二十世紀末というのは考えれば考えるほど不思議である。

千年という時の流れは、さまざまな偏見を洗い流してくれる。もうあと十六年で三千年である。キリストは、一体いつになつたら復活するのだろうか。神の世界とて同じだ。再デビューの道は、いづこも険しい。

三九八四年

今から二千年ほど昔の文献をひもとくと、「一九八四年ジョージオーウェル」と書かれたものが多いことに気がつく。当初は、「一九八四年」という書名の本を、ジョージオーウェルという人が書いたのだ、という短絡的な意見が強かった。が、山手線照射などによる分析の結果、どうもジョージオーウェルというのは当て字であって、正しい字を当てれば「情事を飢える」だろうということで、大方の学者の賛同が得られた。

「一九八四年情事を飢える」

あえてナマのコトバを使うなら「やりてえっ」というようなことではないだろうか。

よく年頭にあたって、居間の壁のスクリーンに「三九八四年忍耐と寛容」などと消火器で書きぞめをする人を見かけるが、おそらくあれと同じであろう。

現在のように物質的にも精神的にも豊かでなかった二千年前の人間が「情事を飢える」のは当り前の気がする。

おそらく当時、情事は食事と同じものだったのではないか。そういえば、当時の性行為に用いられているコトバを見ると「食べごろ」だとか「見ているだけでだれが出そうだ」とか

「しゃぶりつきたくなる」とかいう表現が多いのに気がつく。

これはまだ当時の人間の食欲と性欲という二大本能が、未分化であつたことの証明になるのではないだろうか。

ただ、私が常々、言語学的見地から疑問としているのは「情事を飢える」よりは「情事に飢える」という方が正しいだろう、というテニヲハ問題であり、これは是非とも教科書あげあしとり委員会に諮問したい問題でもある。

そこで、これは全く私の推測の域を出ていないのだが、「情事を飢える」ではなくて、「情事OL」なのではないか、ということである。

「一九八四年情事OL」これは、そのまま当時の動く浮き世絵写真（ポルノフィルム）と解釈が可能だと思うのだが、どんなものだろうか。真偽のほどはわからない。

二千年という時の流れは、さまざまな真実をくもらせてしまう。もうあと十六年で四千年である。キリストは、一体いつになったら復活するのだろうか。シャカもマホメットも復活して、皆な君を待っているんだぞ、誰もが御三家復活を待っているというのに、再デビューの道は、いづれも険しい。

四九八四年

今から三千年ほど昔の文献をひもとくと、「一九八四年ジョージオーウェル」と書かれたものが多いことに気がつく。当初は、「一九八四年」という書名の本を、ジョージオーウェルという人が書いたのだ、という短絡的な意見が強かった。が、長崎本線照射などによる分析の結果、どうもジョージオーウェルというのは当て字であって、正しい字を当てれば「情事を植える」だろうということで、大方の学者の賛同が得られた。

「一九八四年情事を植える」

これは明らかに、現在我々がおこなっている男と女の営みを、当時の人間は知らず、植物にやらせていたのだらう、ということである。

この三千年の間に、人間は性生活というものをガラリと変えてしまったわけである。三千年前はおそらく庭先で、松の木がイチヨウの木を押し倒していたのであろう。それを眺めるうちに、人は知らず性の意味を知り、肌と肌をよせ、足と足をからめる性行為を、この三千年の間に覚えたのである。このことは、九分九厘まちがいがいない。

それにしても人類とは、なんと偉大であらう。三千年も前には思いもよらなかったであらう

性行為というもので、子孫を繁栄させる方法を生み出したからである。

つくづく思うのだが、三千年前の人間は、どうやって子供を産んでいたのだろうか。もしかすれば、三千年前の女性の体には実がなっていたのかもしれない。その当時の人間が、この四九八四年に、ひょっこり現われたとすれば、わずか三千年でやりとげた人類の文明の進歩に彼らは目をミハルのではあるまいか。

電気ガマはある。電気ソウジキはある。最近などは、せんたくでさえも、たらいによる手洗いでではなく、電気で行われるようになったというではないか。第一、スクーターなどという乗り物を見たら腰をぬかすのではないか。町では三階建てのビルも珍しくなくなつた。中学校も、もうじき義務教育になる。道路も次々とホソウされている。

つくづく人類は偉大だ。それに比べてキリストは一体、なにをやっているのだろう。シャカもマホメットも、とうに復活して、すぐに死んだというのに。華やかに再デビューできるとでも思っているのではないだろうか。のぼせあがるのもいい加減にして欲しい、どこも再就職の道は厳しいのである。

ひとたび栄光を手放せば。

このことは人類も心しておいて良いだろう。たとえば三千年経って、七九八四年が訪れた時、結局、今と大差ない状態になっていたりしないように。なにしろ我々は、もうじき、月へ行ったり火星へ行ったりできるようなところまで来ているのだから。

果して月にうさはいるだろうか。永遠の謎も、もうじき解けるのである。

瓶詰のナポレオン

登場人物

白い制服を着た秋
ナポレオン九世男

冬將軍（象徴）

春大佐

夏少将

仁吉

闘士妹（いとはん）

闘士姉（お菊）

H・G・ウェルズ

透明じいさん

透明ばあさん

象徴代理

工員

酒屋（1、2）

シリコンの娘（1、3）



女

白い制服を着た女。

季節の変わり目が、真っ赤に充血した日、自分は渚のポストになりました。恋のはじまりにはまぐりを拾い、恋の終りにかなぐり捨てた女丈夫が、サフラン色の朝まだき、海の上で制服を着ております。將軍、ここは海だらけの国です。御安心下さい。自分は柳の木の下で志願をいたしました。いたしました武士もののふの願いかなう気配なく、じきに何願ったかを忘れ、願ったことさえ忘れ、忘れていることさえ忘れるほどに、だらけていく海だらけの甲板の、そんな海だらけの志願に將軍、何卒、百日の猶予をお与え下さいませ。

2

眠れる森のシリコン

幻燈の世界。

学習用映画のふんいきの音が流れる。

入れ違いにゆつくりと、数字を書いた小さな箱が登場。箱はしめて九つ。

1、2、3、4、5、6、7、8、9と書いてある。

声

シリコンは、美しい結晶体です。0・9999999999999999の純粋さを求めた9の果てにある窮極の美学です。ミクロの世界で輪切りにされたシリコンの結晶の上に感光されていく文様は、この世のはじまりの姿です。そこでは、髪の毛一本ほどのゴミがまじってもだいなしになります。シリコンは、清らかな水と森と空気に囲まれた美しい娘です。